

# 姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2024年6月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI 値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% が DI 値となる

## 産業全体の景気動向の推移

### <概要>

全産業の DI はいずれも改善した。当期の業況を製造業・建設業・小売業・サービス業の4分野でみると、今回は主要3DIのほとんどが前回から改善しているが、製造業の採算だけが前回から悪化した。

経営上の問題点としては、今回もコスト面を1番の問題としてあげる経営者が多数を占める。製造業の「原材料価格の上昇」34.4%、建設業「材料価格の上昇」40.1%、小売業「仕入単価の上昇」29.7%、サービス業「材料等仕入単価の上昇」36.2%と、全体のほぼ3~4割の経営者が指摘している。また、今回は全ての業種で、その割合が増加しており、進行する円安や物価上昇などを背景としたコストの問題が引き続き大きいことがわかる。今回の調査結果では主要3DIの改善がみられたものの、その勢いは比較的緩やかであることが示された。加えて、最新の日銀短観(2024年6月)の調査結果では、中小企業の業況判断 DI は、物価や人件費の上昇などを背景としたコストの増加や人手不足の深刻化により、特に非製造業において「先行き」の見通しが悪化しており、今後の中小企業景況の動向は引き続き注意が必要である。

### <地域別>

#### 【全国】

2024年4-6月期の全産業の業況判断 DI は、▲14.6(前月差 2.7pt 減)となり、前月から悪化した。

製造業の業況判断 DI は、▲12.7(前月差 0.6pt 増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断 DI は、▲24.5(前月差 8.7pt 減)となり、前月から悪化した。

商業の業況判断 DI は、▲17.0(前月差 0.4pt 増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断 DI は、▲3.9(前月差 3.0pt 減)となり、前月から悪化した。

売上額・業況 DI が小幅に低下、採算・資金繰り DI はわずかに低下した。特に売上額 DI は、プラス値を維持しているものの、直近1年間で最も低い DI となった。

多くの業種において、コスト高や消費者の節約志向等のマイナス要因の影響の方が大きい状況である。

#### 【兵庫県】

企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。

倒産件数は、前年を上回った。

#### 【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲34.0となり、全国DI(▲14.6)、兵庫県DI(▲14.6)と比較すると、最も低い。

売上高は、▲28.0であり、全国DI(2.5)、兵庫県DI(▲5.7)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲34.0で、全国DI(▲17.7)・兵庫県DI(▲23.5)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲34.0で全国DI(▲16.4)・兵庫県DI(▲13.8)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

#### (サービス業)

・受注が減少しており業況が厳しい(自動車整備)

#### (商業 小売、卸売等)

・原油高と2024年問題によるドライバー不足が仕入にも影響を及ぼしている。牛乳は配送が無くなり、酒類の配送は減便となっている。(卸売業)

・物価高、個人消費の落ち込み等で特にバイクの売れ行きが悪い(自転車販売)

・酷暑のため補助金終了後の電気料金が高額になる恐れがある(飲食店)

・円安、電気料金・ガス料金等の値上げのため、支出が増加して経営が苦しい(飲食店)

・コロナ禍よりは回復傾向にある。固定客が一定数いるため売上の安定につながっている(飲食店)

・8月から10%程度仕入が上がることから、駆け込み需要が生じている(衣料品販売)

#### (建設業)

・各種資材の高騰に区切りの目途が立たないため、価格転嫁を図ることに苦慮している(建築業)

#### (製造業)

・多様化するニーズに対応する必要があり、新たな設備導入も検討している(金属加工業)

・鉄工業界全体が低迷している。元請け企業も少しずつ停滞している(鉄工業)

・新築工事が減少しているため、建築材が出にくくなっている。かまぼこ板は増減なし(木工業)

#### <業種別業況>

全国的な産業全体の景況は、売上額・業況DIが小幅に低下、採算・資金繰りDIはわずかに低下し、4月期から3期連続で全DIが低下した。特に売上額DIは、プラス値を維持しているものの、直近1年間で最も低いDIとなった。

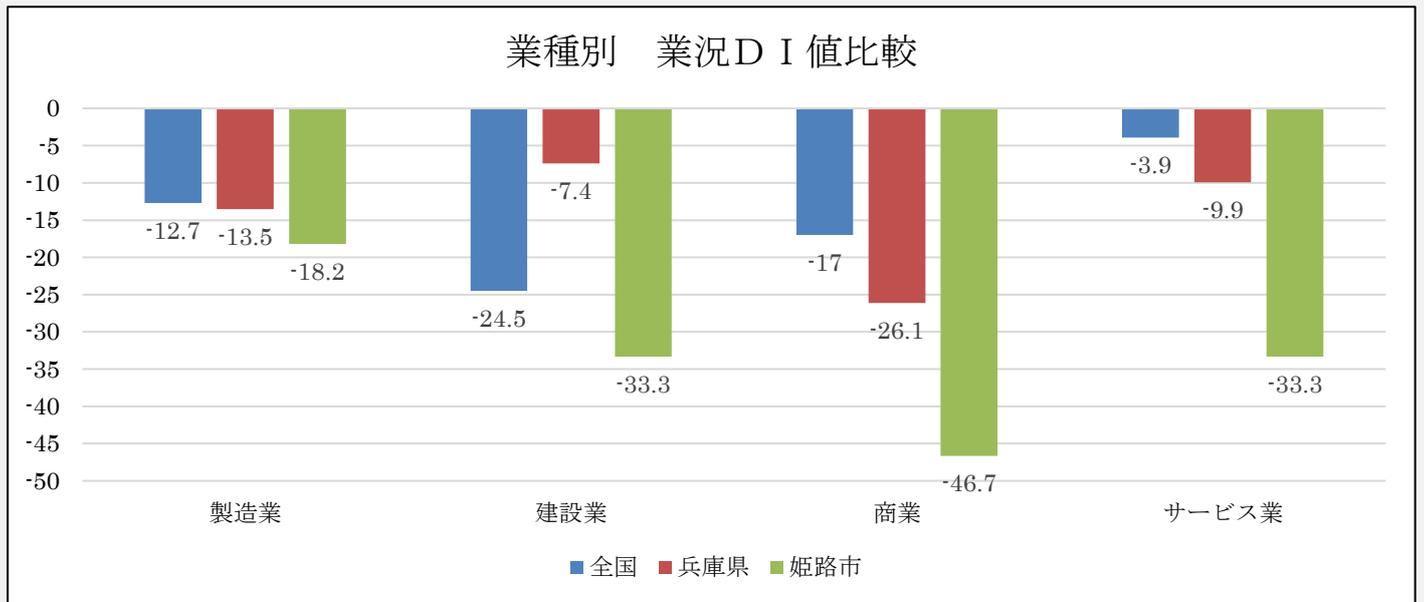
多くの業種において、人流の回復やインバウンド需要の拡大等のプラス要因がある一方で、コスト高や消費者の節約志向等のマイナス要因の影響の方が大きい状況である。

#### <総括コメント>

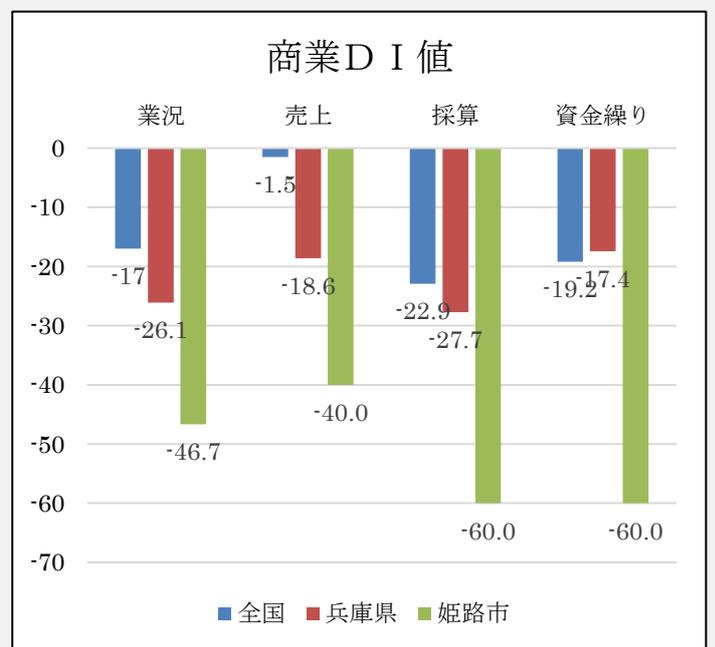
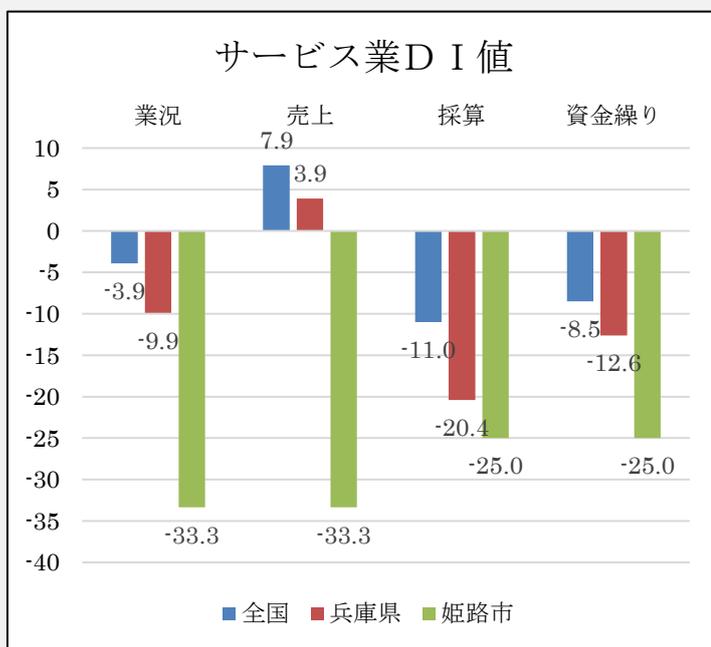
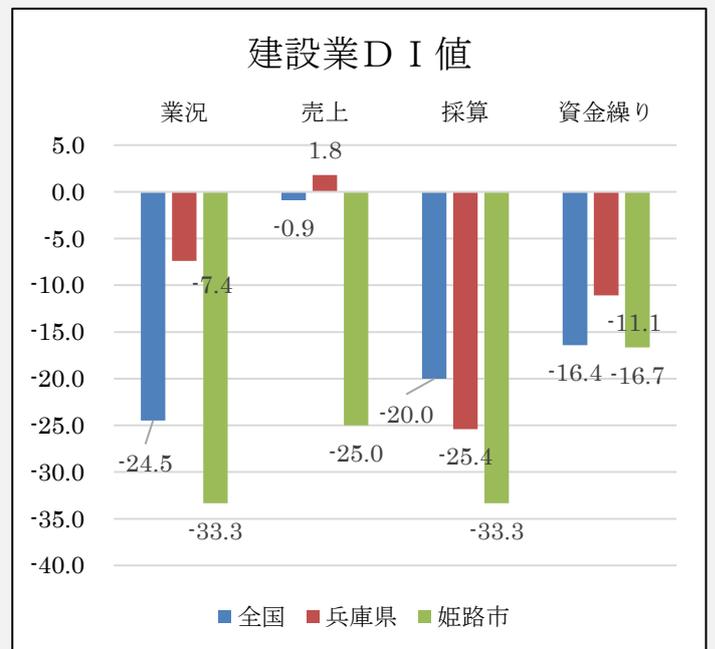
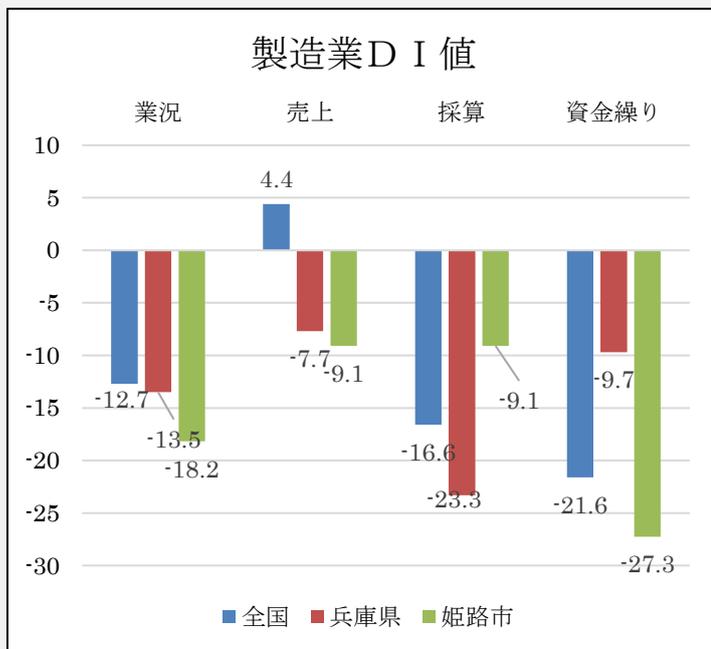
国内景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続に伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

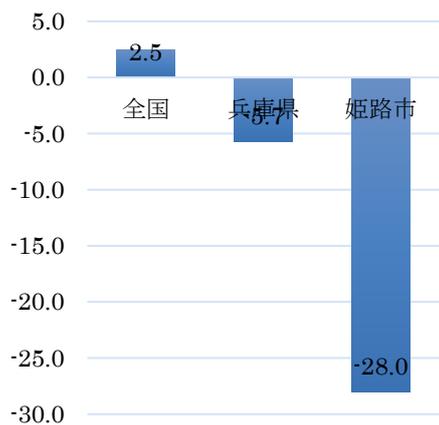
## 業種別 DI 比較グラフ



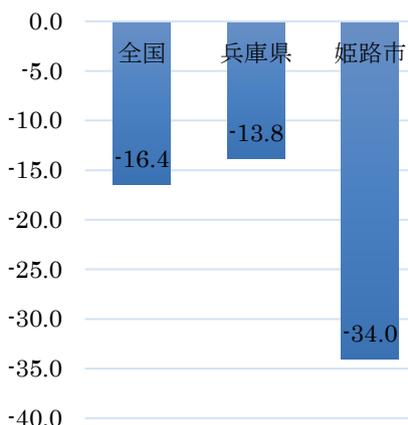
## 全業種 DI 比較



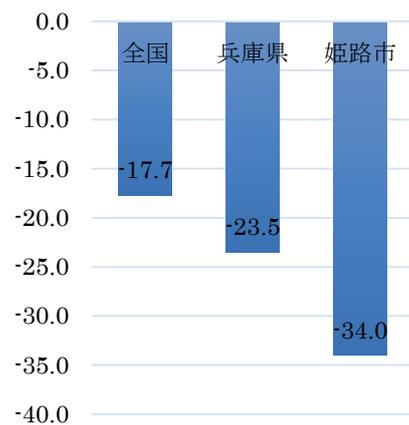
## 売上DI値



## 資金繰りDI値



## 採算DI値



### 管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍

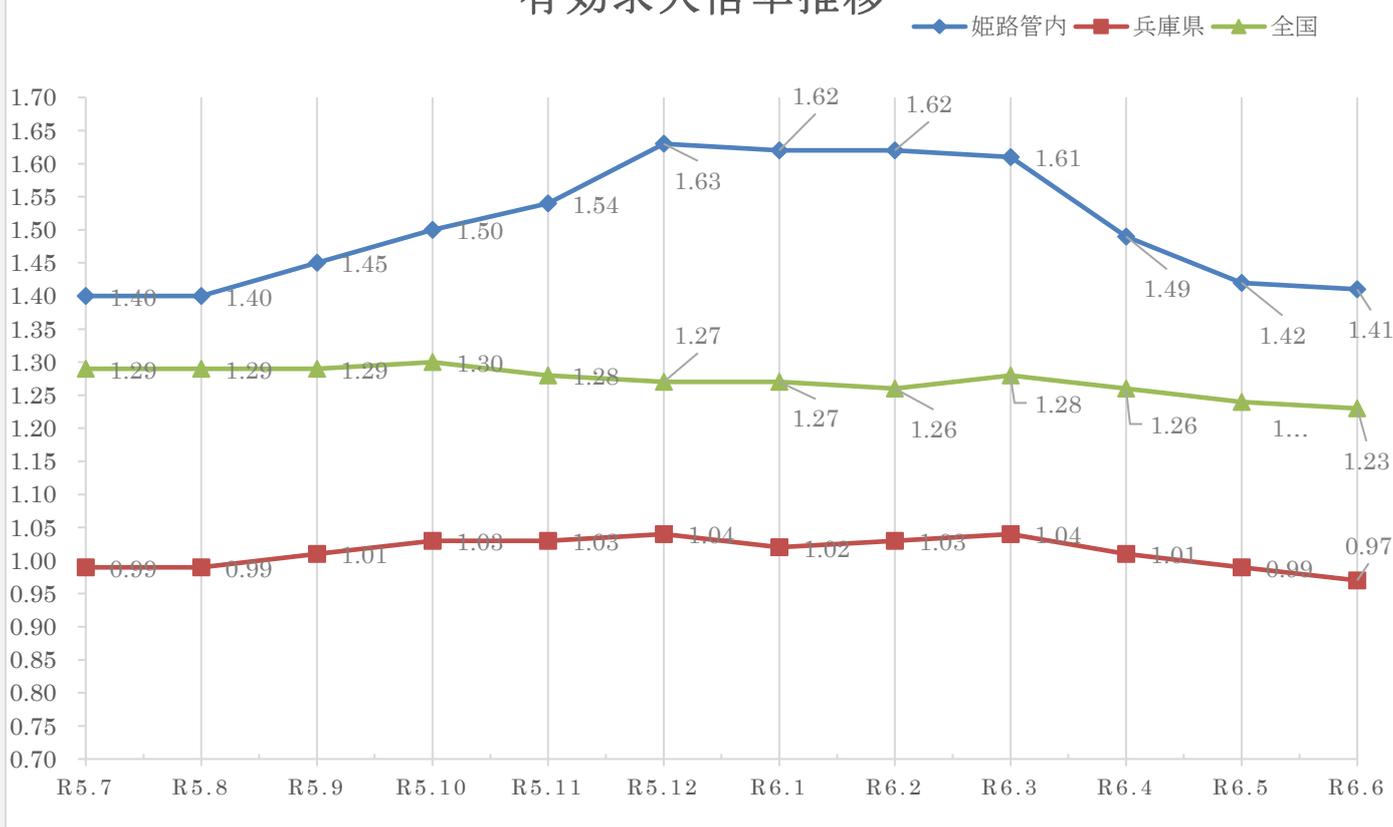
令和 6 年 6 月期の有効求人倍率は、全国 1.23 倍、兵庫県 0.97 倍、姫路管内 1.41 倍となっている。

令和 5 年 7 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。

姫路市は令和 6 年 3 月をピークに減少傾向であるものの、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、雇用情勢について情勢判断を据え置き、「持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を示した。人手不足の基調は続いているが、新規求人倍率が改善するなど、雇用の強弱感があり、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との見方も示した。

### 有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較